

平成30年度地区・令和元年度県指定研究協力校

小中連携「外国語」研究公開

霧島市立大田小学校・霧島小学校・永水小学校・霧島中学校

## 1 研究主題

小中連携による小学校外国語教育の活性化

～英語に慣れ親しみ積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童・生徒の育成を目指して～

## 2 研究発表

霧島市立霧島中学校区内の3小学校と1中学校が連携し、平成30年度は地区研究協力校、令和元年度は県研究協力校として、2年間、研究・実践を進めてきました。

研究発表では、小中連携加配教員（中学校外国語科）を効果的に活用しながら、小学校教員の指導力の向上と指導形態の工夫・改善の視点から、積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童・生徒の育成を目指した取組が示されました。

特に、外国語科の授業を組み立てるために主な活動を一覧表にしたり、コミュニケーション活動の活性化を図るために7つのコミュニケーションポイントを示したりしながら、教職員とそれらを共有化するといった取組は、大きな示唆を与えてくれるものでした。

なお、研究の視点及び具体的な取組は以下のとおりです。



【全体会 I 研究発表の様子】

### 【視点1】

#### 1 指導力の向上

##### (1) 授業づくり

ア 授業の組み立て方（主な活動一覧の作成や展開例の具体例の提示）

イ コミュニケーションの活性化（コミュニケーションポイントの提示やReactionカードの活用）

(2) 評価の在り方（Can Do リストの作成と活用）

(3) 職員研修の充実（中学校教員による専門的及び実践的研修）

(4) 環境整備・情報提供（職員や保護者との情報共有や掲示物の設営）

### 【視点2】

#### 2 指導形態の工夫・改善

(1) 単式での指導（学級担任と加配教員によるTT指導）

(2) 複式での指導（加配教員を生かした単式化授業）

### 3 公開授業

霧島市立永水小学校5・6年生の複式授業と霧島市立大田小学校6年生の単式授業の2つの授業が公開されました。

第5・6学年の複式授業では、小久保さおり教諭と大堀聖典教諭（加配教員）が行いました。コミュニケーション活動を充実させるために、一部合同での指導を行いながら、児童同士の関わりを多くしたり、遠隔授業によりALTとも関わらせたりしながら、交流の場を多くもつことができる授業が展開されました。

第6学年の単式授業では、中山幸治教諭が授業を行いました。コミュニケーション活動を充実させるために、パペットを用いたSmall Talkにより既習表現を想起させたり、教師によるデモンストレーションにより見通しをもたせたりできるように授業を工夫していました。

どちらの授業においても、児童がコミュニケーションのポイント（Big voice, Reaction, Eye contact, Smile）を意識し、生き生きと活動する姿が見られました。



【第5・6学年複式研究授業】



【第6学年単式研究授業】

### 4 分科会

分科会では、コミュニケーション活動の活性化や指導力向上のための取組といった視点で協議が行われました。ワークショップ型の研究協議であったこともあり、熱心な協議が行われました。

参加者からは、「先生自身が楽しんで授業を行っているのがよい。」や「教材・教具が豊富にあることは、指導のバリエーションにつながる。」といった意見が出されました。

次は、参加者の感想の一部です。



【分科会の様子】

- ・ 児童が英語の時間を楽しみ、英語を話すことに自信をもっていることが伝わりました。中学校の専門性の高い教員が授業をし、それを小学校の教員も学ぶことができ、羨ましいと感じました。
- ・ ICT機器の便利さを感じた授業であった。特に、タブレットで撮影して、その様子を児童にフィードバックすることで、児童が自身の課題を明確にしていた。